

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

文学部言語文化学科スラヴ語スラヴ文学専修課程3年

相木 沙知子

基本情報

氏名：相木 沙知子

所属先：文学部言語文化学科スラヴ語スラヴ文学専修課程3年

派遣形態：平成22年度夏個人派遣・学部生

研究テーマ：

ロシアにおける児童文学の変遷について

派遣先での活動

(1)派遣先の基本情報

国名：ロシア連邦

都市名：モスクワ

研究機関：モスクワ国立総合大学、マルシャーク博物館

(2)派遣期間

出発日：2010年9月13日

帰国日：2010年10月5日

総日数：23日間

主な研究成果

(1)当初の計画の概要(200)

モスクワ大学の短期語学留学プログラムに3週間参加し、語学力の研鑽をすると共に、同大学の図書館を利用し、ロシアの児童文学作品やそれらが書かれた背景、その当時の子どもを取り巻く環境などについての調査を行う。調査は児童文学作家サムイル・ヤコヴレヴィチ・マルシャークの作品を中心として行い、彼の活動がロシア(ソ連)の児童文学にどのような影響を与えたのか、児童文学の変遷にどのように関わってきたのかを主として研究する。また、日本の児

童書や現在のロシアの児童書との比較をし、その差異についても調査する。

(2)実際に達成された成果(400)

現地においては、モスクワ大学図書館だけでなく、国立レーニン図書館、マルシャーク博物館からも文献や資料を収集することが出来た。そしてそれらの文献から、マルシャークは自ら児童文学を執筆するだけでなく、他作家の作品の翻訳も手がけることで、児童文学界だけでなくロシア文学全体の発展に大きな影響を与えたことが分かった。また逆に、トルストイのような文豪も児童文学を手がけるなど、児童文学作家だけでなく多くの作家らが児童文学の発展に貢献していたようである。更に、18世紀末にエカチェリーナ2世により積極的に児童文学作品をつくるよう法令が出されるなど、都市部では児童文学の発展に対して肯定的な姿勢を持って取り組んできたが、農村部においてはその意識の普及は大きく遅れをとっていたという国内格差についての新たな発見もあった。以上のような調査から、ロシアにおける児童文学は、同国における他文学・他文化と同様、その始まりにおいてはヨーロッパに大きく遅れをとってはいなかったものの、目覚ましいスピードで発展してきたことが分かった。

(3)今後の研究展望(200)

今後は、今回の児童文学の変遷についての研究を元に、ロシア文学に多くみられるような破滅的・退廃的・衝動的などと形容されるロシア人独特の性格がどのように形成されるのかということについて、児童文学や児童教育がどのような影響を与えているかという観点から研究したい。また今回は、日本との比較というよりむしろ欧州や、同国内の他文化との比較となった為、当初の目的としていた児童文学や教育に関しての日本との比較も行っていきたい。